

I. Cross Sections of the Heavy Nuclei in the Resonance Region

by G. D. James

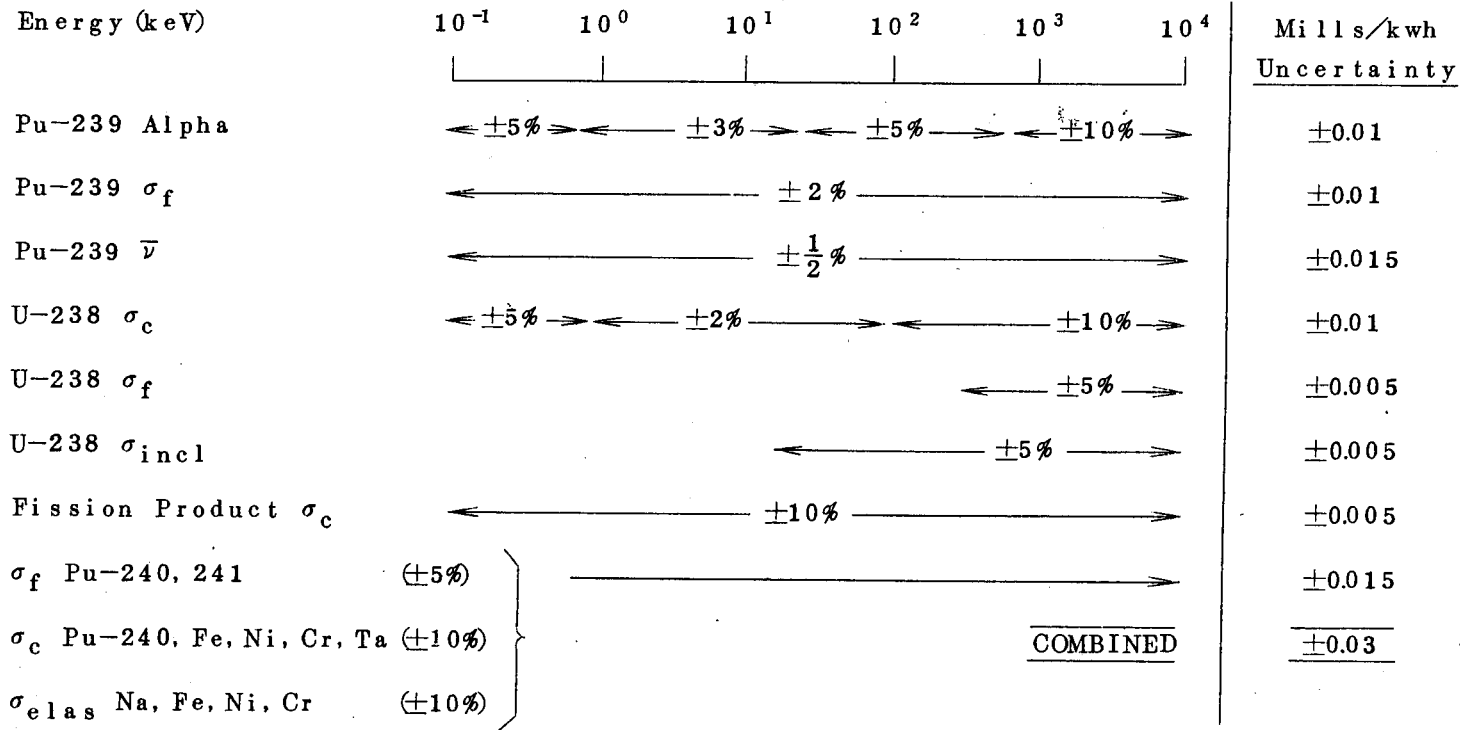
CN-26/107

東 稔 達 三 (原研)

共鳴領域におけるU-233, 235, Pu-239, 241の σ_f とU-238の Γ_γ について触れているが、記述の内容から考えてevaluationというよりはreviewに近いと考えられる。reviewの視点としてはかなり核物理側に近い印象をうける。話の筋立としては、まずGreeblerらの行なつたPu系高速炉の設計の経済性と核断面積の精度の関係から、共鳴領域の重い核種の σ_f と σ_c に注意を喚起し、そのためには特に σ_f の共鳴構造を正確に知ることの重要性が強調されている。そして重い核種の共鳴領域における断面積の測定は主にtime-of

FIG. 1

TARGETS FOR DATA ACCURACY



flight 法で行なわれ、その為の Puls 状の中性子源としては大部分 electron linear accelerator と地下核爆発が用いられるが、これらの方法の利点について簡単に記述されている。

Fig. 1 に Greebler らが行なつた各断面積の要求される精度を再録する。

上記 4 核種の σ_f については、それぞれ若干数の文献からの data とその平均値（各 data に同じ重みを置いている。）と標準偏差が与えられている（Tables I ~ IV : 省略）。Table V に示されるものは、それらを広いエネルギーにまとめた平均の誤差(%)である。Table VI は Table II (U-235) 中の最近の 3 つの data を用いて行なつた解析結果である。(b) の場合は (a) より誤差がかなり減少し、10 keV 以下では 2 % 程になるが、これは現時点における σ_f の限界を示していると述べられている。U-238 の Γ_γ については 3 つの測定の比較を行ない、そのうちのひとつを解析することによつてエネルギー依存性を算出しているが、他の 2 者では確かめられていないのでこのエネルギー構造を受け入れることは現段階ではむずかしいとしている。

なおこの paper では、最近の数年における σ_f の共鳴構造に関する研究が fission potential barrier の知識を進歩させたことを指摘し、それらの data の review も行なつている。

Table V

Average errors in fission cross-section data deduced from the spread of several measurements

Energy range keV	Average error - per cent			
	^{233}U (table I)(a)	^{235}U (table II)	^{239}Pu (table III)	^{241}Pu (table IV)
1 - 10		2.4	4.0	
0.1 - 1	5.1	2.5	4.5	4.0
0.01 - 0.1	4.7	3.1	2.8 ^(b)	3.0

- (a) The energy intervals used in Table I differ from those used in Tables II, III and IV.
- (b) A 10% error on the low cross-section between 30 eV and 40 eV is omitted in calculating this error.

Table VI

Average errors deduced from the spread of more recent data on the fission cross-section of ^{235}U

Energy range keV	(a)	(b)
1 - 10	2.4	2.5
0.1 - 1	4.8	1.9
0.01 - 0.1	2.9	1.2

- (a) These errors are calculated from the spread of the last three data columns in Table II. The data of Cao et al. in column 8 are lower than the other two sets. When these data are renormalised to the mean of the two sets in columns 7 and 8 over the entire energy range 10 eV to 2 keV a reduction in the average error results as shown in (b).